

授業方法について独自に工夫していること 【自然科学系】

【理科教育】協働学習方法を講義内に取り入れ、授業課題をグループで解決するような取組を行っている。
【教職】今までの講義や教育実習の振り返りと話し合いを取り入れている

- ・1単位時間ごとに一つの課題を提示し、解決するようにしている。
- ・課題について、自分で考える場、グループで協議する場、全体に発表して情報共有する場を設定して、自分の考えを引き出したり、多様な感じ方や考え方がることを理解するようにしている。
- ・教員の解説や説明よりも、実体験や実感を伴った理解に重きを置いている。
- ・どの時間も最終的には、教科の目標・内容・指導法に絞ってまとめている。

C-Learningというシステムを使い、授業改善を図っている。即時的なレスポンスを授業内で取り上げることができる。

授業で取り上げた数学教育的に重要な問題(実際の教科書上の問題や数学教育の中では有名な問題)を、授業の最初に解かせたり、授業開始時の小テストの問題にするなどして、その問題の解答に内在する数学的な見方・考え方を解説するという回を数回設けるようにしている。小テストの問題にする場合は、基本的には、前回の授業の終了時に、「次回までに考えてくるように」との指示を出している。
以前のアンケートで、「授業内容の量が多い・多すぎる」と回答する学生が25%程度いたため、内容を少し精選した。結果としては、10%強になったので、一定の効果は出ていると思われる。

小学校教科書を活用し、実際に小学校が行う体験的な活動を中心にした授業を行うことにより、生活科への興味を持たせるとともに、教材開発に必要な資質・技能を身に付けることができるよう工夫した。

水溶液の pH の解説を行う際に、溶液内化学平衡の解析をパソコンを活用して迅速に行うようにしている。このことにより効果的に化学平衡を理解することができていると考えている。

- 講義(聞く・知る)とペア対話やグループ協議・検討(話す・考える・分かる)ことを取り混ぜて行っている。
- 機器の利用(ICT活用)を心がけている。

教員免許を修得する学生にとっての最後の授業であるので、高等学校や中学校の授業を見学したり、課題探究の授業に加わり、高校生に直接アドバイスできる機会を設けたりした。また、受講生である4年生は、模擬授業を行う3年生の指導教員としての役割を行わせ、教育実地研究で学んだことを振り返り、後輩に伝えることで、総まとめができる工夫を行った。

教職についてから役に立つ内容で、かつ、4年間の学習内容の一部でもよいから、振り返ることになるような授業内容を作っている。

- ・個人での学習とグループでの学習もしくはディスカッション等のバランスを考えている。
- ・適宜、パワーポイント、DVD等の視聴覚教材を採り入れている。
- ・学術研究と実践研究の両方を重視している。

講義では学修カルテ(ポートフォリオ)用紙を学生各位に用意し、振り返り記述の確認を各講義回で行って講義内容の理解を確認しているほか、朱書きコメントをできる限り返している。また、遅刻者や欠席回数が多い者の出現比率が過去よりも高まっている状況から、学修の雰囲気づくりを講義冒頭にして環境を整える目的で、開始時に毎回こちらが用意したトピックに関して自己PRの表現をさせる欄を学修カルテへ今年度新たに追加して記述作業を加えた。

授業の中で小グループによるディスカッションを取り入れています。

毎回の授業の最終段階で「出席確認課題」を課し、その時間の学修内容の振り返りと、次の時間の学修内容への橋渡しを行っている。

幼児教育との接続を意識した愛知県知多地方教育計画案のスタートカリキュラムを取り上げ、5分間程度のシナリオを作成させる。具体的な指導場面における予想される児童の反応をできる限り詳しく想定させる。グループワークによって相互に批評し合い、各自のシナリオを修正させる。シナリオを用いてロールプレイを全員が行い、児童役の言動の質を高めるように指導する。
生活科の授業記録、実践記録を示し、児童の気づきを見出し、粘り強く取り組み続けるように導く教師の言動について議論できるようにしている。

初等教育の算数科研究であるが、小学校の児童のつまづきや発想について、学生が自ら体験できるような内容・教材を工夫して、教科内容と教職の教育との大括りにつながる内容の実践を試みている。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【自然科学系】

【理科教育】授業の履修カルテの記述内容、協働学習への取組ならびにプレゼンの他己評価、筆記試験を総合的に評価している。

【教職】授業への参加、話し合いへの取組、レポートなどを総合的に判断

【生活科教育A】

- ・毎時間提出するノートの記述内容を関心意欲・思考・理解について評価して得点化している。
- ・定期試験の記述内容を教科の内容や指導法の定着度について評価して得点化している。
- ・15回分のノートの得点の累積と試験の得点を合計して結果を出している。

【生活科研究 A B I】

- ・毎時間提出するノートの記述内容を関心意欲・思考・理解について評価して得点化している。
- ・15回分のノートの得点の累積を結果としている。

日頃の授業への参加の度合いを、前述のC-Learningにおける学生の履歴から判断して評価している。
その他、作品の完成度、発表内容などを踏まえて総合的に評価している。

シラバスには、「講義内容と「授業外学習指示」で指定した学習を踏まえた<知識／理解><思考／判断>を問う筆記試験(持ち込み不可)を85%、レポートを15%とする」と書いており、実際のそのようにして素点を出したが、毎回、総合点の平均を70点程度にするように、ある程度得点調整をしている。学生には、自己評価に比して単位は出ているように思えるだろう。実際、アンケート問13「授業の難易度」に関して、25%程度の学生が「難しい・難しすぎる」と回答しているが、授業レベルとしては丁度よいと思っている(その割には、問15に「1時間未満・なし」と回答している学生が7割以上いるのが大問題(23/35と19/23)。

講義中に指示をした提出物と授業への参加意欲や態度及び定期試験の結果を踏まえ、総合的に評価した。

出席と課題のレポートの出来具合に基づき、総合的に評価している。

○講義参加、振り返り、ワークショップ、テストを、それぞれの「評価視点」「達成規準」により行った。

提出されたレポートで総合的に判断した。

出席と授業態度、および、内容理解の達成度

・授業への関心・意欲・態度、授業の振り返りカード、および、課題レポートを踏まえ総合的に判断した。

主に理科指導を考えるために必要となる教科目標や教科・教材内容の知識の理解、学習者の授業での変容やその取り扱い、その評価に関する技法の理解は重要になる。この視点から特に、構成比率50%を占める筆記試験ではこれを評価しているが、2年生よりも教育実習後の3年生の方が、児童生徒スタンスから教師スタンスへと彼らの視点がより移行するために、成績素点は上昇する傾向にある。この特性を踏まえて、クラスの学生の文脈に応じて得点調整を行うことで妥当な判定の確保に努めている。また、平常点(学修カルテの記述を含む)と課題点(複数回のレポート)を合わせることで、実践的指導力について構成比率50%で捉えて成績素点を算出している。これらの成績素点を合算して、最終的に学業成績を判定している。

毎回の授業で提出してもらっている小レポートをメインに評価をしました。

毎回の授業で実施した「出席確認課題」と「期末考査」とを基に、総合的に判断した。

授業内で課すレポート(50%)生活科の本質と教科の独自性に関する講義内容を踏まえて、複数回レポートを提出させた。課題への的確な回答・記述の方法・独創性及び発展性の3観点によって評定した。
模擬授業における指導と評価(30%)ロールプレイにおける授業者としての振舞いを、児童への評価行動、児童とのコミュニケーション、基本的な技術(声量、発話の速さなど)の3観点によって評定した。
授業中の参加態度(20%)主にロールプレイにおける児童役としての振舞いを評価した。また、発問に対する反応、グループワークの発表者等の動きをその都度記録して点数化した。

提出された各課題において、観点別にして、十分に理解されている、理解されている、理解が十分ではない、ならびに表現に独自性がある、表現できている、表現が十分でない、の段階別の評価を合算することによる。

アンケート結果を受けて改善したいところ 【自然科学系】

【理科教育】結果からは問題は見当たらない 新しい授業課題の提案
【教職】特段なし

・グループで協議する場と全体に発表して情報共有する場の時間配分を改善し、スムーズな授業展開ができるようにしたい。
・事前学習の内容についてしっかり考えたい。

全般的に「ややそう思う」が多いことから、どのようにすれば「強くそう思う」という感覚を与えられるか、今後検討したい。今の段階では、その方法が見当たらない。

問15に「1時間未満・なし」が7割を超えるというのは大問題であるが、前回授業で出した問題を次回の小テストの問題にして、小テストの評価の比率を上げるようにしてみたい。また、そうした小テスト問題の出題の仕方ができるような回を増やすこともしてみたい。

「教材・教具はわかりやすいか」という設問において、後期(理科中等)では「強くそう思う・ややそう思う」が、前期(社会中等など)のおなじ設問の87.2%より、22%程低くなっている。
後期に受講する学生が1.5倍に増え、教室いっぱいであったこともあり、聞こえづらいこともあったかと思う。資料や提示方法などを工夫していきたい。

特になし

○「難しい」「多い」との項目について、検討・改善を行いたい。

この授業は、各研究室でおこなっているもので、アンケート結果にばらつきが出ていると思われるが、このままで良いと思われる。

真ん中よりだいぶ左によっているので、これでよいと思う。

・本授業の各アンケート項目について受講生は概ね満足していると思われるが、生活科に関する学術的・実践的関心をさらに高める授業を工夫していきたい。
・授業回数に関して、ホームカミング・デーにおける生活科の実践発表と講演を授業の一環として、計15回、実施した。そのことを事前に説明していたが、それを理解していない受講生がいたようである。今後、このような場合は周知を徹底するようにしたい。

・学修カルテは振り返り記述を行う道具の機能に特化します。そのかわりに、記述内容について学生に十分確認させ、表現に自己責任を持たせるような工夫を導入します。
・良質なコミュニケーションの実践へさらに努めます。具体的な例示や問いの提供等で学生による理解の確認ができる機会を確保します。教育意図を的確に伝え、学生の成長意欲を促すことで、教育成果の出現を目指します。

もっと学生の疑問に対して、フィードバックできるよう努めたいと思います。

授業の難易について「難しい」「難しすぎる」の選択率が高いのは、この授業では一貫して「受講生自らが考え、自分の言葉で表現すること」を最大の目的にしているからであろう。この授業では、考えるきっかけになるであろう「たくさん知識」を紹介し、それをもとに自らの考えを深めてもらった。この「たくさん知識」をすべて暗記しようとした受講生は、「難しい」「難しすぎる」と感じたかもしれないが、「たくさん知識」に共通に内在する主要な要点をおさえて自分の考えを深められた受講生は、そこまで難しいと感じなかったと推測する。今後は、後者のタイプの受講生が大半になるよう、授業内でのコメントを工夫したい。

- ・シラバスを配付し、毎回の授業で本時の位置と目標を明示すること。
- ・資料を見直し、新しい指導事例を豊富に提供すること。
- ・学生の探究のきっかけとなるような質の高い内容をさらに研究すること。

教科の専門ではない(主に美術・体育)の学生に対して、おおかた肯定的な結果が得られたのは励みにしたい。しかし、最も否定的な回答が数名以上あることについて、授業のなかでも意欲等において意識していたが、学生の互いの交流やピア活動による改善策も検討する。